

## 異常な暑さにも負けず、作業に汗を流すボランティアの皆さん



浅口清掃センター社員による草刈り＆回収作業



刈草回収作業のおかやま山陽高校（空手部・ユネスコ部）生徒の皆さん



浅口市スポーツ少年団による刈草回収作業



作業を終えホット笑顔のおかやま山陽高校生徒の皆さん



厚岸町教育委員会との対談

アツゲモソウ通信

第 15 号

令和 7 年 10 月

## アッケシソウ通信 第十五号 によせて

浅口市長 栗山 康彦

アッケシソウ通信第十五号のご発刊、誠におめでとうございます。

「浅口市寄島町アッケシソウを守る会」の皆様におかれましては、長年にわたり地域に根ざした保全活動と自生地周辺の環境整備にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。皆様のお力添えにより、秋の紅葉時にはその鮮やかな彩りで多くの人々を魅了するアッケシソウ。本州唯一の自生地として貴重な環境を守り抜いてきた取組みは、まさに地域の誇りです。本年は、その活動が、第八十三回山陽新聞奨励賞を受賞するという大変喜ばしいニュースがありました。この受賞は、皆様のたゆまぬ努力が実を結んだものであり、私といたしても大変嬉しく、誇らしく感じております。

また、昨年には北海道厚岸町と寄島町の小学生によるオンライン発表会が行なわれ、アッケシソウをテーマとした学びと交流が実現しました。児童たちは、それぞれ研究してきた内容を発表し合い、アッケシソウや互いの地域の魅力についても理解をさらに深めました。アッケシソウが地域の誇りとして、次世代へ大切に受け継がれることを期待しています。結びに、貴会のますますのご発展と、アッケシソウがこれからも多くの皆様に親しまれることを願いまして、ご挨拶いたします。

## 令和六年の活動報告

会長 藤沢 福夫

昨年の活動では、一段厚岸町との交流が深くなったのと、寄島学園の子供たちの活動が光った年となりました。

具体的には、十月のアッケシソウ祭りの最中に、厚岸町職員の訪問があり、自生地で浅口市との交流し、親睦を深めることができました。

子ども達の活動としては、アッケシソウ祭りの時、自分達で調べたアッケシソウの説明文や写真を用意して、見学者のみなさんに堂々と説明している様子が、大変嬉しく思われました。

翌月には、厚岸町の小学校四年生とオンラインの交流が授業の中で行なわれ、お互いのアッケシソウに関して調べた事の発表があり、子ども達の楽しそうな様子に、たのしく思った次第です。

それから昨年のアッケシソウ祭りでは嬉しい事がありました。実は名古屋から観光バス二台で見学に来られました。ガイドの話では、浅口市のアッケシソウと世羅町の花農園が目的とのことでした。

私達の活動が、一步一步確実に広がっていることが、今後の保護活動を、頑張ろうと活力が湧く思いです。

自生地では、海水導入によりヨシが減少し、アッケシソウが良く生長しており、紅葉時が大変楽しみであります。

## 「厚岸町のアッケシソウ・チカラコタン地区について」

厚岸町海事記念館

学芸員 小田 島 賢

昨年度は、学校交流における自治体見学として、貴市のアッケシソウ自生地を視察させていただき、大変感謝申し上げます。

さて、私は令和二年度（二〇二〇年度）に厚岸町海事記念館の考古学担当の学芸員として採用されました。北海道の東部に位置する厚岸町は、八、〇〇〇人程度の小さな自治体ですから、専門分野のみでなく、町の歴史などに関するあらゆることに携わらせていただき、充実した日々を過しています。

アッケシソウについては、北海道帯広市出身の私も厚岸町で仕事をするまで全く存在を知らず、今となつては恥ずかしい限りです。

前号では、当館の菅原館長が厚岸町におけるアッケシソウの歴史について述べていましたので、今回はチカラコタン地区での栽培について、少しばかりですが書かせていただきます。

当町では、アッケシソウの自生地が船でないと簡単に見ることができないため令和三年度に奔渡地区（通称・チカラコタン地区）に大規模な栽培地を造成し、令和四年度から人工栽培を行なっています。

当館は植物の専門職員がいなかったため、東京農業大学の中村教授にご指導を仰ぎ



ながら、栽培を進めています。

この地区の栽培地は四つの区画からなり、地盤高（低・高）と地盤地質（砂・土）の組合せをそれぞれ変えて栽培を行なっています。この栽培区画は、東側から一面（低・土）、二面（低・砂）、三面（高・土）、四面（高・砂）としています。

人工栽培の一年目は、当館職員によってアッケシソウの種子を播種することからはじまりました。当初は芽が出ず、ヒヤヒヤしましたが、六月初頭によくよく発芽し、安堵したことを記憶しています。この年は、個体数が少ないものの、三面・四面で赤く色づきました。

二年目は、全ての面において個体数が大幅に増加しました。しかし、アッケシソウだけでなく、その他の植物（ヨシ類・スゲ類）もみられるようになってしまいその駆除に大変苦慮したことから、秋の

種子採取後に耕耘を行ないました。またこの年度には星野名誉教授及び水田氏に浅口市のアッケシソウに関する講演をいただいたほか、東京農業大学の中村教授とその研究室の学生からは、チカラコタン地区での栽培について講演いただいたり改めてこの場で感謝申し上げます。

三年目からは、様々な方に栽培地を見ていただけるよう、アッケシソウ学習会を六月・九月の二回実施しています。

四年目となる今年は、これまで成果のあまり上がらなかった一・二面の生育状況が良くなるよう、地盤のかさ上げをおこなったほか、海水が導入する取水口から海藻が多く入り込んでいたため、蛇籠（へびかご）を取水口に設置する等の整備工事を実施しました。来年度以降、この成果がわかることとなるので今から職員一同楽しみにしています。

このようにチカラコタン地区でのアッケシソウ栽培地は、日々試行錯誤を重ねながら栽培を行っています。ぜひ厚岸町を訪れることがありましたらご見学いただくと幸いです。

末筆ながら、本通信に掲載の機会をいただき、心から感謝の意を表するとともに、貴会の益々のご発展をお祈り申し上げます。



## 北海道・厚岸町職員来浅

事務局長 三宅 哲一

昨年十月十八日、日本で初めてアッケシソウが発見された北海道厚岸町教育委員会の蔵光貴弘氏と小田島賢氏が浅口市寄島町のアッケシソウ自生地を訪れました。

この日は、地域学の一環でアッケシソウについて学んでいる寄島小学校五年生二十七人が、一般公開している自生地のガイドボランティアを体験しており、視察に訪れた職員二人も児童から説明を受けました。児童は、アッケシソウが日本で初めて発見されたのは厚岸町で、地名が由来していることや、寄島町が本州で唯一の自生地と言われていること等、半年間で学んだ成果を発表しました。

発表を聞いた職員二人は「児童が写真や資料を交えて説明してくれたのがとても分かり易かった」と話し、児童たちの取組みを称えていました。児童からは「北海道からの視察で緊張したけれど、色々と工夫して発表出来てとても良かったです。アッケシソウの事をもっと知りたい」と思っており、大人になったら守る会に入りたいと思いましたが「頼もしい感想を頂きました」。

もう一人の児童からは「発表で工夫した事を褒めてもらって嬉しかった。アッケシソウを大切にしていきたいです」と嬉しい意見を述べてくれました。

今回の視察は、紅葉期のアッケシソウ自生地とアッケシソウを教育に取り入れ



ている浅口市の取組みを今後の参考にしようと思われたもので、蔵光貴弘氏は「詳しく調べている子どもがとても素晴らしいと思いました。田中校長先生から、こういうことを大事にしながらやっている、厚岸町に持つて帰り、さらに交流を深めて行くにはどうしたら良いのかを厚岸町でも考えて行きたい」と述べてくれました。

浅口市と厚岸町は、平成十七年にアッケシソウを守る会が、視察で訪問したのを契機に交流が始まりました。令和四年十月には、厚岸町議会厚生文教常任委員会の皆様が来られ、令和六年度からは寄島小学校五年生と厚岸小学校の四年生児童のオンライン交流も行なわれています。小田島学芸員は「厚岸町では放送されていないものの、一般市民も訪れることも出来るのですが、まだ害虫の問題など色々と抱えています。今回色々な場所を見せていただきましたので、今後の課題、方針も見えてきたと思います」と述べておられました。



## 活動支援の紹介

本年も笠岡東ロータリークラブ（長鋪会長）より、支援金を賜りました。十三年間という長きに渡り、ご支援を賜り守る会一同心より御礼を申し上げます。福嶋会員から「本州唯一の自生地アッケシソウをこれからも、会員皆さんの力で保存して行かれることを願っています」との言葉を賜りました。



## 企業等賛助会員

アツケシソウを守る会の活動資金充足のため、七年度も企業賛助会員をお願い致しましたところ、二十九の企業・病院・金融関係・商店等からのご協力、ご支援をいただきました。心から御礼を申し上げます。(アイウエオ順列記)

|               |               |
|---------------|---------------|
| アキタ帽子(株)      | (有)菅貝服店       |
| (有)荒川電気工業所    | (有)西備サービス     |
| (有)荒川モーターサービス | (有)妹尾溶接       |
| 池田歯科医院        | 高山医院          |
| (株)一力興業       | 中央ガス(株)       |
| 印刷のまこやま       | 中備化工(有)       |
| 垣内フオスタジオ      | ドレンシー(株)      |
| 笠岡信用組合寄島支店    | (株)ニッポ        |
| (株)川崎商会       | 医療法人 福岡医院     |
| (株)吉川隆泉堂      | Honda Cars 笠岡 |
| 医療法人 金光病院     | (株)ミヤケ建設      |
| 斎藤教材(株)       | 医療法人 みわ記念病院   |
| J A 晴れの国岡山    | (株)めぐみ        |
| 寄島支店          | 山下農機商会        |
| しるやま歯科クリニック   | 医療法人          |
|               | よりしま中西医院      |

## 浅口市寄島町アツケシソウを守る会 山陽新聞奨励賞・社会部門 受賞

令和七年一月九日浅口市寄島町アツケシソウを守る会が「奨励賞・社会部門」を受賞しました。

この賞は、地域社会への貢献・活躍が顕著な個人、団体に毎年贈られているも

のです。

山陽新聞社の松田社長から藤沢会長に「その道一筋に研鑽を積み、たゆまぬ努力を積み重ねて大きな成果を上げてこられた。」

これからも健康に留意しながら活動し、後進の指導にも当たって頂きたい」と祝福の言葉を賜りました。

## 第83回 山陽新聞贈呈式



## 『視察研修』に参加して

### 中務 栄

六月七日(土)、二十二名で、住民が在来種保護活動をしている鳥取県岩美町の浦富海岸に行きました。バスから降りて、保護活動に集まっていた人たちや代表の湯浅さんから詳しい説明を聞くことができました。

砂浜に繁茂する珍しい海浜性植物「オカヒジキ」が、外来種「オニハマダイコン」の侵入により、だんだんと姿を消していった。地元の方は、オカヒジキを茹でて食べる馴染みの深い植物です。

そこで三年前から「オカヒジキ、戻ってこい!」との思いを込めて、オニハマ

ダイコンの駆除活動を始めた。約三十名が、年に一回(六月上旬)集まり、オニハマダイコンの株をただひたすらに抜く活動を続けた結果、今年は三千株以上のオカヒジキが見られるまでに回復した。さらに、この活動を知った地元の人たちが、散歩中などにオニハマダイコンを見つけたら抜くようになった。

次は、体力勝負で、木々の覆い茂る三百メートルのケモノ坂道を一列になって通り抜け、ようやく熊井浜にたどり着きました。波打ち際から少し離れた砂の上に、オカヒジキが点々と目に入りました。同時に、青く澄み切った空と日本海の美しい光景に感動しました。

今後の私たちの活動を、後押ししてくれているようでした。

爽やかな好天とゆったり寛げる大型バスで楽しい研修ができました。ありがとうございました。ございました。



## アツケシソウを若人にも!

今年は今までにない異常気象に、アツケシソウの生育にも影響が心配されました。浅口清掃センター社員、おかやま山陽高校生徒(サッカー・空手・ユネスコの各部)と浅口市スポーツ少年団児童の皆さんの元気ではつらつとした活動に、会員は元気をいただき、草刈りに汗を流しました。

しかしながら、会員も歳と体力共に退会を余儀なくされています。若い人たちが一人でも入会して力となっていただける事を願っています。

寄島町ふれあい交流館(サンパレア)の窓口で、「アツケシソウを守る会」の活動をお聞きの上ご入会下さい。

## 編集後記

「アツケシソウ通信」第十五号を発行しました。『守る会』も二十年となりました。アツケシソウのA・B・C各地区も草刈りそして回収作業により、整備されて生育範囲も拡がり、環境保全も一段と良くなっています。これも浅口市教育委員会のお力添えそして内外からの皆さんの参加により拡大しています。

これからも浅口市寄島町に生える『自生地アツケシソウ』として永く皆さんに愛されて行くことを願っています。

アツケシソウ祭り(期間・十月十九日、二十一日)には見学に訪れる皆さんと会える事を楽しみにしています。是非、見学に来て下さい。お待ちしております。